

社会教育が地域を元気にする

～平成24年度「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」実証的共同研究採択事業報告～

第11回 南大阪地域大学コンソーシアム

学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する大学・自治体連携型 による新しい公共の担い手となる人材育成モデル構築を目指して ～「子ども堺学」・キャリア教育サポーター養成・認定・研修制度を事例として～

文部科学省では、平成22年度より地域の課題解決のための「仕組みづくり」を支援する「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」事業を実施しています。このページでは、24年度に実施した本プロジェクトの採択事業の報告を紹介します。以下のホームページも御覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/project/1303673.htm (文部科学省HP)
<http://manabi-mirai.mext.go.jp/other/project.html> (学校と地域でつくる「学びの未来」HP)

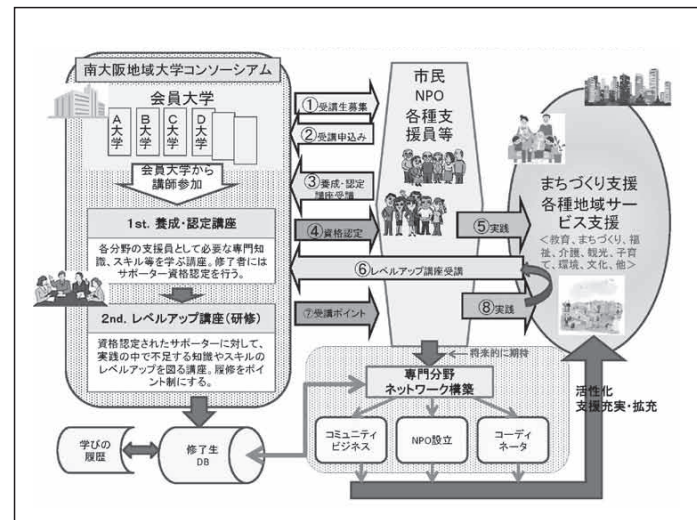
教育サポーター養成講座」を開講しました。受講生15名全員が講座修了認定を受け、サポーター登録されました。今後、「子ども堺学」の強力なサポーターとして大いに期待されています。



研修風景

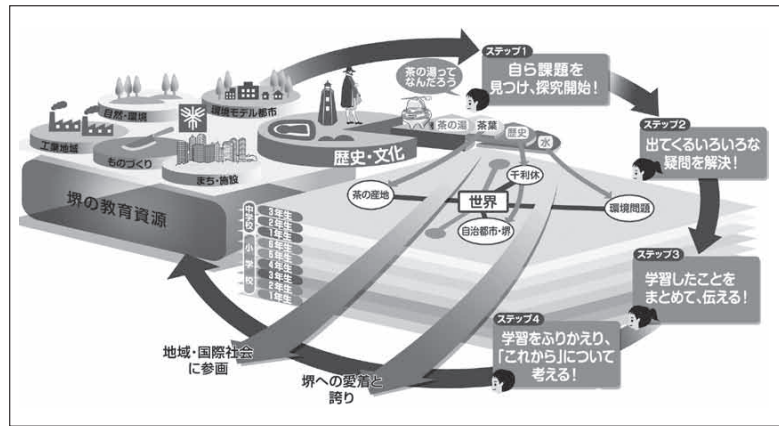
3 学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する人材育成モデル

本取組を始めたきっかけは、「子ども堺学」の導入が進んでいたことに加え、堺市が、「循環型生涯学習社会」の実現を目指していることになりました。背景には、近年、地域活動ボランティア活動・NPO活動等の学習を行っている市民の割合が増え、生涯学習による地域貢献への意向も増加しているもの、学習成果を活動に生かす仕組みがまだ十分に整備されておらず、一方で、新しい公共の担い手としてNPOや地域住民の力が期待されているもの、必要となる実践的スキルや専門知識等がまだ十分に備わっていない、という二つの現実がありました。そこで、南大阪地域の22の大学等の連携組織である南大阪地域大学コンソーシアム(以下、南コンソ)を中心に、堺市の関係部署(堺市企画



学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する自治体・大学連携型地域人材育成の仕組み

部、生涯学習課、協働事業推進担当)、堺市教育委員会が連携し、「子ども堺学・キャリア教育サポーター」の養成・認定・研修を実施し、仕組みづくりのモデル事業としました。
 本取組では、講座の修了者に対して資格認定を行いました。修了者にとって資格認定とは、①自分に対する動機づけであり、②身分証明であり、③自信となっていたことが分かりました。循環型生涯学習の実現に向け、一つのヒントがあると思います。「自治体・大学連携型地域人材育成



「子ども堺学」の学びの流れ

1 小中一貫教育「子ども堺学」の誕生
 堺市教育委員会では、平成23年度から小中一貫教育及び学力向上の実現を目指して「子ども堺学」を柱としたモデルカリキュラムや教材開発を進めてきました。「子ども堺学」は、自分が育つ堺の歴史や伝統・文化・産業・人々の生活などについて学習することで、堺への愛着・誇りや参画意識を高めるとともに、世界とつながりを感じ、多様な文化を尊重する心、新しい価値観を創造する力を育むことを目指しています。堺市

は、古墳群、中世の自治都市堺、利休を生んだ歴史・文化を持ち、堺泉北臨海工業地域、刃物や線香といった伝統産業をはじめとするものづくりが盛んで、環境モデル都市であり、自然環境にも恵まれ、80万人超の政令指定都市です。こうした多面的な顔を生かした教育が「子ども堺学」です。

2 堺を知り、堺を学ぶ「子ども堺学」を支援する市民の育成・輩出

「子ども堺学」の学習は、身近なところに興味・関心を持ち、問題を発見し、自ら考え、友だちと協力しながら解決に向けて取り組むものになっています。そのためには、生活の中に根付いた知識や昔話など多様な情報を収集したり、あるいは、街の中をフィールドワークするとき、子どもたちの安全を守るための支援も必要で、言い換えるなら、地域の人たちとの協働なくして、「子ども堺学」の学びの充実を図ることは難しいのです。
 そこで、「子ども堺学」を理解し、その教育を支援するために、平成24年10月から2月にかけて「子ども堺学・キャリア



研修風景

モデル」は、今回のように教育分野だけでなく、子育て支援、環境、観光といった他分野においても同様の展開が期待されています。

4 「子ども堺学」・キャリア教育サポーターへの期待

本養成講座を実施したことで、「子ども堺学」について知り、理解する市民を輩出できたことが一番の収穫です。その理由は、「子ども堺学」は、地域の生きた教材を体験することを何よりも大切に、地域の教育資源を活用した教育の実現を目指していることから、学校、地域、企業、大学等の協働体制づくり及び意識の向上が課題となっているからです。

「子ども堺学」の構築にあたっては、南コンソ会員大学の多種多様な専門分野の教員25名が参加し、「子ども堺学」の上位概念として「子ども地域学」という新しい概念の構築及び体系化を図ろうとしています。全国各地では子どもたちが地域のことを学ぶ中でアイデンティティを育んでいます。地域の教育力の低下が言われる中で、「子ども地域学」は、地域の人たちや企業やまちが一体となって子どもたちを育てていく一つの在り方と可能性を示すものとして、期待が膨らんでいます。

(南大阪地域大学コンソーシアム
 統括コーディネーター 難波 美都里)